

在宅訪問栄養食事指導の実際と効果

中村 育子[†]第67回国立病院総合医学会
(平成25年11月9日 於金沢)

IRYO Vol. 68 No. 11 (559-562) 2014

要旨

在宅で疾病や障害を抱えつつ生活を送る在宅要介護高齢者は増加傾向にある。医療法人社団福寿会は東京都足立区にあり、平成4年より在宅での医療と看護・介護を中心に貫いて活動を展開してきた。その中核となっているのが福岡クリニック在宅部である。当医療法人は病院・診療所の入院施設があり、平成26年2月現在、医師、相談課、看護課、栄養課、リハビリテーション課、医事課があり、在宅部は在宅療養支援診療所で約700名の在宅患者に対し24時間在宅診療を行っている。その他訪問看護ステーション、居宅介護支援事業所、地域包括支援センター、介護老人保健施設、通所系サービスのデイサービスやリハビリテーション（リハビリ）、居住系施設のグループホームや有料老人ホームがあるため、連携して患者が在宅にいても入院・入所していても同じサービスを提供することができる。

在宅訪問栄養食事指導は在宅患者の Activities of Daily Living (ADL) および Quality Of Life (QOL) の改善に重要な役割を果たしていることが明らかとなっており、医療保険・介護保険を使って行うことができ、患者宅で栄養指導を行うことにより、嗜好・経済状態・間食・実際に食べている物・量・調理者、家族の介護疲れ・価値観などがわかるため、実践的・効果的な栄養指導を行うことができる。管理栄養士は在宅訪問栄養食事指導で、栄養状態を悪化させている要因を探するため栄養アセスメントを行う。食事が食べられない要因は、在宅の場合、口腔内の問題・病状の悪化・孤独での落ち込み・薬の副作用による食欲不振以外に、環境、経済性、精神面での要因がわかったら、多職種連携して改善できるよう栄養ケア計画を作成し、本人・家族が希望している生活のあり方に添うように栄養ケアを進めている。在宅で訪問できる管理栄養士は全国的にまだ少ないが、今後は家族や訪問介護等で食事量の低下や体重減少を発見し、在宅訪問管理栄養士につながるようにしたい。

キーワード 在宅訪問栄養食事指導, 高齢者, 栄養

福岡クリニック †管理栄養士

(平成26年2月13日受付, 平成26年9月19日受理)

Current Status and Effect of Dietitian in Home Care

Ikuko Nakamura, Fukuoka Clinic

(Received Feb. 13, Accepted Sep. 19, 2014)

Key Words: dietitian in home care, elderly, nutrition